

令和 6年 10月 23日

南箕輪村議会議長 様

提出者名 西森一博

議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	上伊那市町村議会議員研修会
研修・視察実施場所	宮田村民会館 大ホール
研修・視察の期間	令和6年10月21日
研修・視察の成果等	「クラシック音楽をあなたと」の講演をされたのが、講師の兎東俊之氏で、世界的なヴィオラ奏者であり、令和天皇陛下に皇太子の頃からヴィオラを教えた先生であった。兎東氏は2002年に宮田村に移住されており、研修会では伊那市在住の林智子さんのピアノ伴奏に乗せてヴィオラを演奏。6曲のうち1曲は天皇陛下に献上された曲を披露してくれた。演奏の合間に曲の説明や宮田村に来た経緯や天皇陛下との関係などを話してくれた。この研修を受けるまでは、兎東氏のこと宮田村に住んでいる事も知ることが無かった。以前は東京に住んでいたが、音楽をする環境を考えると静かな田舎が適していたと話されており、文化人が長野県に移住する人が多くいる理由がわかった。生まれた時から住んでいると、上伊那の恵まれた環境が当たり前になっていることに気づかされた。 「身体障がい者の心と生活を支える聴導犬・介助犬」と題して、社会福祉法人日本聴導犬協会の棚田氏、和田氏、ボランティアの高橋さんと共に聴導犬3匹が登壇した。盲導犬は知っていたが、聴導犬や介助犬は馴染みがなかった。聴導犬と介助

	犬の説明を実践しながら説明してくれた。 聴導犬協会では譲渡会などで聴導犬や介助犬の適正がありそうな犬を選んで訓練所で育成している。こうして育成された聴導犬は全国に 50～60 頭ほど活躍していると話されていた。こうした聴導犬は聴覚障がい者の耳となって、日常の音を聞いて知らせてくれる。現代社会ではスマートフォンなどのテクノロジーを利用することで、聴覚障がい者に伝えるための手段は多様になっている。しかし、音が聞こえない、聞き取れない環境の中では不安が常に付きまとうが、聴導犬と一緒にいる事で不安を抑える効果があり、障がい者の生きがいになると話されていた。 コミュニケーションは情報を伝えると同時に、五感で感じる感情も伝えている。効率だけを考えると、大切な感情が乏しくなってしまう。自治会でも効率化、省力化が進められることが多いが、それと同時にコミュニケーションのあり方も一緒に考えるべきだと感じた。 今回の研修会では人の豊かさを考えさせられる研修だったと思える。
--	---

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。